

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

南 結婚して間もなく、夫が始めたクリーニング店を軌道に乗せるために不眠不休で働きつめていました。駅のホームでふらついて転落。あわやのところで居合わせた方々に引き上げてもらいました。その帰りに、何気なく入った本屋で俳句雑誌を手に取り、楠本憲吉を師系とする結社の『視線で考える一片耿々の誌』の言葉が心に留まり、句会に参加することに。滑稽俳句は、第八回滑稽俳句大賞募集の広告で、憧れの池田澄子先生が選者でいらしたので応募したのがきっかけです。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

南 軽くて、深くて、優しいところです。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

南 ただ可笑しいだけでは無くて、人生の機微のようなものだと思います。いつか、淡麗辛口の大吟醸の一滴のような句が作れたらと思います。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

南 俳句を初めて約二十年になりますが、滑稽俳句はまだ始めたばかりで良く分かりません。自身の句がどこへ辿り着くのかワクワクしています。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

南 好奇心を失わず、常に心のアンテナを磨いておく事ではないでしょうか。たくさんの方の滑稽俳句を読むことも大切だと思います。

【代表句】

どこまでも上昇思考振り花
前頭前野機能しません暑いです
雑念を小分けしました吾亦紅
奥さまは奥にいません月今宵
ふところに入れても財布寒いまま